

令和元年 8 月 9 日

出雲市議会議長

川上 幸博 様

陳 情 書

陳情者

住所 出雲市今市町 284 番地

氏名 出雲市認可保育所（園）保護者会連合会

会長 坂根壮一郎

事務局 出雲聖園マリア園内

TEL 0853-21-3620

インフルエンザワクチンの有効性の周知と任意接種費用の公費助成を求める陳情

【趣旨】

インフルエンザワクチンの有効性を市民に周知し、乳幼児に対する任意接種費用の公費助成をお願いいたします。

【内容】

毎年 12 月から 3 月にかけて多数の感染者を出すインフルエンザは、免疫力の弱い乳幼児間で特に流行しており、平成 30 年－31 年流行期において、保育園に通う乳幼児、約 6,500 人のうち延べ 754 人がインフルエンザに感染しています。この時期、小児科病院には病児が溢れ、夏季には閑散としている夜間・休日診療所も 2 時間以上順番を待たされ、病児・病後児保育施設もすぐに満員になって利用できなくなるのですが、インフルエンザの流行が要因の一つです。

インフルエンザを一度発症すると、完治するまでに 1 週間程度の期間を要し、さらに重篤化すると肺炎やインフルエンザ脳症などの合併症を発症することもあります。日本小児神経科学会によるとインフルエンザ脳症を発症した場合、約 30 %が死亡し、約 25%の子どもたちに後遺症が出るとされています。

幼稚園や学校等の教育機関においてインフルエンザが発生した場合、学校保健安全法の規定に基づき、学級または学校閉鎖措置をとることができます。一方、保育所（園）では感染症予防上、必要に応じて休園措置を講ずることができますが、教育機関のような法的規定が存在しないため、実情は休園措置が行われていません。従って、各所（園）には可能な限りの予防措置を実践して頂いていますが、流行しやすい状況にあります。インフルエンザが流行した場合、保育所（園）内だけではなく、家庭や地域でも感染が広がる可能性があり、社会コストはさらに増大します。

インフルエンザの予防法としては手洗い、うがいの徹底などもありますが、効果が科学的に確認されているのはワクチンによる予防接種のみです。100%予防できるものではないことが問題になりますが、重症化を防ぐという点においては、十分に効果が認められています。また、日本臨床内科医会の河合直樹医師らの研究によると、ワクチンの 2 回接種を

行うことにより 85%の発症予防効果があります。加えて、北海道大学大学院医学研究院の西浦博教授によると、社会全体で接種率が 80%を超えると集団免疫が働き、流行がほぼ無視できるほどの規模に収まるとの報告もあります。

当会が保育所（園）に通う保護者に実施したアンケートによると、回答した保護者の約 75%は、子どもに予防接種を行わせていますが、費用が 1 人当たり 7,000 円～8,000 円と高額であることなどを背景に、出雲市の小学 6 年生までの子どもの接種率は 60%程度と、80%とは程遠い数値となっています。また、医療関係など保護者の職場によっては、その費用の一部を支援する勤め先もありますが、大多数の保護者には、何の支援もありません。

また、子どもがインフルエンザに感染した場合の看護者について、「母親」が回答数の 69%と最も多く、働く女性に大きな負担が生じています。一方、市内で約 50 人の従業員（うち子育て世代の女性が半数以上を占める）を抱える企業においては、昨年、同時期に 3 名の従業員がインフルエンザの看護を理由に休業し、業務の一部が停止する事態が発生したと聞いています。このように、子育て中の女性を雇用する企業では、インフルエンザ流行による弊害が大きく、子育て世代の女性が社会で活躍できる場を奪っている状況にあります。

家計への影響については、勤務先によっては看護による休暇が有給である一方、51%の方は、収入に影響が出ると回答されています。最低賃金で試算した場合、子ども 1 人がインフルエンザにり患した場合、1 家庭で 1 か月 3 万円（最低賃金 764 円×1 日当たり労働時間 8 時間×休業期間 5 日）収入が減少し、家計に負担をかけていると推定されます。また、兄弟姉妹がいる場合、他の兄弟が発症すると、さらに負担が増えます。

市内の 1 歳児から 6 歳児までの約 9,000 人に対し、4,000 円ずつ助成した場合の総額は約 3,600 万円に上ります。実施の際はこの財源が問題になるわけですが、観光客からの収入で財源を確保しては如何かと考えます。現在出雲市が管理する神門通り広場駐車場(旧交通広場駐車場)は、普通車約 90 台が駐車可能の無料駐車場です。ここに 1 台 500 円程度の料金を設定すれば、年間 3,000 万円以上の収入が見込めるのではないかと考えます。同様に、市営ではありませんが、無料で提供されている駐車場が市内には数多くあります。子育て支援のための特定財源として是非ご検討いただきたく存じます。

本県におけるインフルエンザ予防接種にかかる公費助成については、浜田市が唯一、平成 24 年度から小学 6 年生まで（平成 26 年度までは未就学児が対象）の子どもに対して実施されていると聞いております。本市におかれましては、「出雲市まち・ひと・しごと創生総合戦略(H27~31)」において、「出雲で縁を結び、子育てしていく希望をかなえる」を基本目標に子育て環境の向上を目指しておられるところです。

保護者会連合会が約二か月間で実施した署名活動には、10,955 名もの方にご賛同いただきました。保護者がこの施策を切望し、周囲の皆様にもご賛同いただいた結果であると存じます。

何卒上記の趣旨をご勘案いただき、インフルエンザワクチンの任意予防接種に対し、国の動向に先んじる先進的な取り組みとして、インフルエンザワクチン接種の意義を周知し、まずは乳幼児への速やかな公費助成を切望する次第です。誰もが積極的に接種できるように、是非ともご検討いただけますようお願いいたします。

以上